

(シンガポール会場)

国

語

受験番号	
番	
	氏名

受験上の注意

- (一) この問題用紙は表紙を含めて四ページあります。
- (二) 試験開始後ただちにページ数を確認してください。
- (三) 問題用紙、解答用紙それぞれに受験番号と氏名を記入してください。
受験番号は算用数字で記入してください。
- (四) 試験時間は四十分です。
- (五) 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- (六) この試験は百点満点です。

【一】次の文章をよく読んで、あとの問い合わせに答えなさい。（字数は記号・句読点も一字と数えます。なお、出題にあたって本文に一部改変があります。）

今、日本でも欧米でも、西洋哲学と近代科学を唯一のよりどころとして文明を推し進めてきたことを反省しようという動きが強まっています。早急に新たな発想を取り入れていかないと地球は崩壊してしまう、と。西洋哲学は、主体性をもつてているのは人間だけであるというスタンスです。近代科学にとつて、環境は人間が管理するものです。環境を変えることで人間に都合のよい世界をつくることが大事であり、技術はそのためにあるという考えです。こうして主体と客体をはつきり分け、自然を管理してきた結果、今日のような大規模な自然破壊が起きました。プラネタリー・バウンダリーという言葉を聞いたことがあるでしょうか。これは、「地球の限界」ともいえるもので、「それを越えなければ人類は将来も発展と繁栄を続けられるが、越えると、急激な、あるいは取り返しのつかない環境変化が生じる可能性がある」境界のこと。今すでに九つの項目のうち四つが境界を越えたとされています。

こうした中で注目されているのが、東洋哲学の中にある「容中律」（肯定でも否定でもなく、肯定でも否定もある、とする論理）の概念なのです。これは、0か1、その間を許さない西洋発の概念「排中律」（どのような命題も真か偽のいずれかであるとする論理）の逆を行くもので、わかりやすくいえば、両方の存在を許すことです。日本には、20世紀の前半から、西田幾多郎や和辻哲郎ら、人間と自然を一体化して捉える学者が登場していました。ぼくの大師匠の今西さんも、人間以外の生物にも主体性があり、環境と生物種は相互に影響を与え合って「生活の場」をつくつていると主張していました。

「移民か、移民でないのか」「アメリカに利するものかそうでないか」「敵か味方か」「お前はどっちか」と迫るアメリカのトランプ大統領の発想はまさに排中律です。「どちらもある」ということが言えれば世界は変わるものに、それができずに、世界は行き詰まりを見せていました。だから、それを解決する手段として「容中律」という哲学、科学のあり方が摸索されているのでしょう。

今、世界はとことん正解しか求めません。それが分断につながっています。世界は本来、「実は正解がいくつもある」というものに満ちています。たつた一つの正解に全然なくとも、決定的に不正解に陥らなければ、戦争も起きないし、命も失われません。

考えてみれば、今のデジタル社会も、0か1かという発想でつくられています。その中間も、「どちらも」という考え方も許されません。それも排中律の概念に基づくもので、だからデジタル空間には「間」がありません。「仲間なのか、仲間ではないのか」と迫るSNSの世界がまさにそうでしょう。仲間でありつつ仲間でないという発想がなぜできないのか。どちらにも属するかもしないし、どちらにも属さないかもしないという「間」の発想が世間一般に広がれば、もつといろいろなことが樂になるはずです。ネットワーク社会の特徴である点と点とのつながりを、弱点ではなく利点として応用すればいいのです。

（山極寿一『スマホを捨てたいこどもたち』ボプラ新書より）

問い合わせ。この文章の後半(形式段落二段落目から後)で、筆者の主張していることを六十字以内でまとめなさい。その際、必ず次の言葉を含むようにしなさい。

「間」 世界の諸問題 解決

下書き用 解答は必ず解答欄に書いて下さい。こちらは採点の対象になりません。

A 漢字に関する問題

問一 次の①～⑩の一部のカタカナは漢字に直し、漢字はその読み方をひらがなで答えなさい。

- ①野党が与党に対し、レンジ国会を開くよう要求した。

②うれしいことに、夏の甲子園で母校がユウショウした。

③夜間の滞留人口がかなりミツになつていて心配だ。

④東京オリンピック・パラリンピックがヘイカイした。

⑤彼女の突然の提案に一同がナンショクを示した。

⑥お客様の玄関先まで直接配達員がお届け致します。

⑦用事が済んだらすぐに帰つてきてください。

⑧今年の夏の旅の思い出を心に深くキザみこんだ。

⑨目の前の水面にウツる富士山の姿に感動した。

⑩今年も八百屋さんの店先にスイカの並ぶ季節となつた。

B ことわざ・慣用句に関する問題

問二 次の①～⑤の意味を持つ慣用句の空欄を補うのにふさわしいからだの一部を、後の語群から選び、記号で答えなさい。

- ①ひどく驚いたり関心したりして言葉もでないようす を巻く
- ②気分がすつきりすること がすく
- ③相手が強く、とてもかなわないこと。 が立たない
- ④相手を見下して、冷たく対応すること。 であしらう
- ⑤だまされること。 にのる

語群

ア・頭 イ・歯 ウ・手 エ・腰 オ・舌 カ・尻 キ・爪 ク・胸 ケ・目 コ・鼻

C 文法・言葉づかいに関する問題

問三 次の①～⑤の各文について、誤りを含まないものには○を、誤りを含むものには×を解答用紙に書きなさい。

- ①お忙しい中、お越しください、まことにありがとうございます。
- ②あの書類については、私がそちらに午前中にはお届けします。
- ③お待たせしました。ご乗車いただくバスが参りました。
- ④長旅でお疲れのせいか、お客様はすぐにお休みになられました。
- ⑤父が先生に明日会いたいとおっしゃっていました。

問題は以上です。